

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 785 号	氏名	今井 智里
学位審査委員		主査	森内 浩幸
		副査	皆川 昇
		副査	本田 純久
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、熱帯地域における季節性インフルエンザの流行動態が気象因子によってどのような影響を受けているのかを明らかにするために、インフルエンザに対し感受性の高い5歳未満児を対象とし、バングラデシュのダッカ市の貧困地域におけるインフルエンザ罹患と気象因子の関連を解析したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 同地域における集団代表性のある小児急性呼吸器感染症サーベイランス時系列データと、気象データ（相対湿度、最低気温、日照時間、降雨量）を収集し、zero-inflated ポアソン回帰モデル及び一般化線形ポアソン回帰モデルを用いて週毎インフルエンザ A 型・B 型の各陽性者数と気象因子との関連を解析しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 A 型インフルエンザ陽性者数は最低気温、相対湿度、日照時間、降雨量と有意な関連を認める一方、B 型インフルエンザ陽性者数は相対湿度とのみ有意な関連を認めた。A 型・B 型とも相対湿度が 50~70% で陽性者数の増加を認め、熱帯地域における先行研究と一致していた。降雨量については先行研究と異なる結果であったが、その理由として人口構成や人口密度の違いについて考察しており、解析・考察についても妥当である。</p> <p>以上のように本論文は環境疫学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			